



中学 1 年生

国語

5 月 29 日

今週の宿題

プリント 11 ことわざ編・授業で行った作文・漢字練習(初段 3・4)

名前 _____

授業で使用するもの：筆記用具・このプリント(またはノートか裏紙)・Sirius

ニュースの内容を簡潔にまとめましょう。

重要だと思った部分

メモ

(重要なところを
ここに書き込んで
ください)

下書きの内容をもとに八〇字以内で要約しましょう。

[illegible]

類似・反対の意味を持つことわざ

学習日

月

日

ことわざには、似たような意味や、反対の意味を持つものがあります。これらは合わせて覚えておきましょう。

◆類似の意味を持つもの

- ☐ かつばの川流れ
☐ 弘法にも筆の誤り
☐ さるも木から落ちる
☐ とうふにかすがい
☐ ぬかにくぎ
☐ のれんにうでおし
- ……どんな名人でも時には失敗する。
 ……手ごたえがない。効果がなし。

例題①

次の□にあてはまることばを右から選んで書きなさい。

- (1) どんな名人でも時には失敗する。

↓ □ も □ から落ちる

- (2) 手ごたえがない。

↓ □ にくぎ
↓ □ にうでおし

◆内容に共通点のあるもの

- ☐ 一寸の虫にも五分のたましい……小さく弱い者でも意地があるから、決してあなどってはならない。
☐ おぼれる者はわらをもつかむ……困ったときは、頼れそうになりものでもすがりつく。
☐ ちりも積もれば山となる……わずかなものでも集まれば大きくなる。
☐ えびで鯛をつる……わずかなもので多くの利益を得る。
☐ ぬれ手で粟……苦勞せずに多くの利益をあげる。●ぬれ手に粟
☐ とらの威を借るきつね……強い者のかげでいばること。
☐ 長いものには巻かれよ……目上の者や勢力の強い相手と争わない方がよい。

例題②

次の意味のことわざを、右から選んで書きなさい。

- (1) わずかなもので多くの利益を得る。

- (2) 目上の者や勢力の強い相手と争わない方がよい。

- (3) 困った時は、頼れそうにないものでもすがりつく。

◆内容に共通点のあるもの

- 馬の耳に念仏……いくら言っても聞かずに効き目がない。
- ねこに小判……価値が分からず、役に立たない。●ぶたに真珠
- すずめ百までおどろ忘れず……幼いころ身につけた習慣は、年を取っても忘れない。
- 三つ子のたましい百まで……幼いころの性質は年を取っても変わらない。

例題③

次の意味のことわざを、右から選んで書きなさい。

(1) 価値が分からず、役に立たない。

(2) 幼いころの性質は年を取っても変わらない。

◆逆の意味あいをもつもの

- 急がば回れ……急ぐときこそ、慎重にしなければならない。
- 善は急げ……よいことは機会を逃さず、急いでした方がよい。
- 悪事千里を走る……悪いことはすぐ世間に知れわたる。
- 悪事千里を行く
- 人のうわさも七十五日……世間のうわさはしばらくすれば忘れられてしまう。

□ 案ずるより産むが易し……あれこれ考えるよりも、行動してみると、心配していたほど難しくはない。

□ 石橋をたたいて渡る……用心の上にも用心をするたとえ。

□ 転ばぬ先のつえ……失敗しないように前もって用意する。

□ 立つ鳥あとをにこさず……立ち去る者は、あとが見苦しくないよう始末するべきだ。

□ 旅のはじはかき捨て……旅先では知る人もいないので、はじめからいってその場限りのものだ。

例題④

次の文と逆の意味あいをもつことわざを、右から選んで書きなさい。

(1) 立ち去る者は、あとが見苦しくないよう始末するべきだ。

(2) 悪いことはすぐ世間に知れわたる。

(3) よいことは機会を逃さず急いでしたほうがよい。

(4) 急ぐときこそ、慎重にしなければならない。

(5) 行動してみると、心配していたほど難しくはない。(2つ)

練習問題

1

次の□にあてはまることばを書きなさい。さらに、ことわざの意味を後のア〜クから選び、記号で書きなさい。

意味

(1) □ より産むが易し

(2) 立つ鳥あとを □

(3) 悪事 □ を走る

(4) □ の虫にも □ のたましい

(5) □ にも □ の誤り

(6) □ にうでおし

(7) □ の威を借りる □

(8) □ 先の □

アどんな名人でも時には失敗する

イ行動してみると、心配していたほど難しくはない

ウ失敗しないように前もって用意する

エ小さな者でも意地があるので、あなどってはならない

オ悪いことはすぐ世間に知れわたる

カ強い者のかげでいばること

キ手ごたえがない。効果がない

ク立ち去る者は、あとが見苦しくないよう始末するべきだ

2

次の意味のことわざになるよう、□にあてはまることばを書きなさい。

(1) 幼いころの性質は年を取っても変わらない。

↓ □ のたましい □ まで

(2) 幼いころ身につけた習慣は、年を取っても忘れない。

↓ すすめ □ まで □ 忘れず

(3) 手ごたえのないこと。

↓ どうふに □

(4) どんな名人でも時には失敗すること。

↓ かつぱの □

(5) 苦勞せずに多くの利益をあげること。

↓ □ で乗

(6) いくら言っても聞かないこと。

↓ □ の耳に □

(7) 急ぐときこそ、慎重にしなければならない。

↓ □ ば □

(8) わずかなものでも集まれば大きくなる。

↓ □ も □ ば □ となる

例題 ④ (1) 花より団子 (2) 泣きつ面にはち (3) 七転び八起き

(4) 二階から目薬

P 40

◇練習問題◇

1

- (1) さば・オ (2) 雨・地・ア (3) 鯛・ク (4) 口・苦し・イ
(5) かわず・キ (6) 人のため・エ (7) 災い・カ
(8) まこと・ウ

2

- (1) 仏 (2) 都 (3) 背比べ (4) 帯・たすき (5) 牛
(6) 船頭・山 (7) 郷・郷 (8) 世間・鬼

P 41

◆応用問題◆

1

- (1) ○ (2) × (3) ○ (4) × (5) × (6) ○ (7) × (8) ×
(9) ○ (10) ○

■解説■

(2) 「手伝うのはやめなさい」とある。手伝うことは相手のためにならないから止めている様子である。ことわざの意味は「人によりことをしておけば自分のためになる」という意味なので、まちがって使われていることになる。よって×。

(4) 「どんぐりの背比べ」とは、「みんな平凡で、飛びぬけてすぐれたものがない」という意味である。この文ではちょうどあった大きさの皿がないという意味で使われている。よって×。この場合、中途半端で役に立たないという意味の「帯に短したすきに長し」がふさわしい。

(5) この文では、雨に降られ、かさも忘れるという二重の不運が重なっている状態である。何度失敗してもくじけないという意味の「七転び八起き」では合わない。よって×。この場合、「不運の人にさらに苦痛や不運が重なること」という意味の「泣きつ面

にはち」や「弱り目にたたり目」が合う。

(7) 「あふはち取らず」は欲張ると結局何も得られないという意味である。「まだどうなるか分からないことをあれこれ考えている」という本文の内容と合わない。よって×。ふさわしいのは、まだ手に入らないものをあてにするという「とらぬたぬきの皮算用」。

(8) 「花より団子」は名誉よりも実利を選ぶという意味である。この場合、ケーキと桜のことが逆にになっている。

2

〈解答例〉

- (1) ・不便な地域に引越したが、住めば都だ。
・住めば都で、今ではこの町が好きになった。
(2) ・急におこづかいをもらった。たなからばたもちだ。
・たなからばたもちで、友人からお菓子ももらった。
(3) ・石の上にも三年で、彼はすばらしい投手になった。
・石の上にも三年と言うし、もう少しがまんしよう。

11 ことわざ編 ②

P 42

例題 ①

- (1) さる・木 (2) ぬか・のれん

例題 ②

- (1) えびで鯛をつる (2) 長いものには巻かれよ

例題 ③

- (1) おぼれる者はわらをもつかむ

例題 ④

- (1) ねこに小判(ぶたに真珠)
(2) 三つ子のたましい百まで
(3) 旅のはじはかき捨て (2) 人のうわさも七十五日

P 43

◆練習問題◆

- (3) 急がば回れ (4) 善は急げ
(5) 石橋をたたいて渡る・転ばぬ先のつえ(順不同)

1

- (1) 案ずる・イ (2) にござず・ク (3) 千里・オ
(4) 一寸・五分・エ (5) 弘法・筆・ア (6) のれん・キ

2

- (1) 三つ子・百 (2) 百・おどり (3) かすがい (4) 川流れ
(5) ぬれ手 (6) 馬・念仏 (7) 急が・回れ
(8) ちり・積もれ・山

◆応用問題◆

1

- (1) × (2) × (3) × (4) ○ (5) ○ (6) ×

■解説■

- (1) 「立つ鳥あとをにごさず」はあとが見苦しくないように始末をするべきだという意味である。よって×。ふさわしいのは「旅のはじはかき捨て」。ほかに、「後は野となれ山となれ」も同じような意味を持つ。意味は「今さえよければ後はどうなってもかまわない」である。

- (2) 「くよくよするな」とある。失敗したことをはげましているのに、「悪いことはすべ知れわたる」という意味のことわざを使うのはおかしい。よって×。ふさわしいのは「人のうわさも七十五日」。「毎日の積み重ねが大切ですよ」という内容とあわない。よって×。ふさわしいのは、大きなことも手近なところから始まる、という意味の「千里の道も一歩から」などがよい。

2

- (1) イ (2) ア (3) イ

■解説■

- (1) 「すずめ百までおどり忘れず」とは昔の習慣は年を取っても忘れないという意味である。よって、「若いころ」とあるイが正解。
(2) 「とらの威を借るきつね」とは強い者のかげでいばるという意味である。この場合、強い者とは「お父さん」である。よってアが正解。

- (3) 「さるも木から落ちる」とはどんな名人でも時には失敗するという意味である。どんな名人でもということは「君」はふだん失敗をしない人である。よってイが正解。

3

- (1) 立つ鳥あとをにごさず (2) えびで鯛をつる
(3) (逆の意味) 案ずるより産むが易し
(似た意味) 石橋をたたいて渡る
(4) とらの威を借るきつね